研究班紹介 第7班

海とみなとの運河研究―横浜とアジアの運河

内田　青蔵（非文字資料研究センター　研究員／研究班代表）

本共同研究は、江戸時代から明治・大正、そして、昭和時代を経て急変した横浜の海辺と運河の変容の様相を、歴史学、建築学、人文地理学などの視点から究明することを目的とする。具体的には、

(1) 本学の建築学科高木幹朗研究室が記録した1970年代の横浜臨海部の写真資料をもとに横浜の水辺と運河の変容について運河と建築の変化さらにはそれに付随した漁業、港湾労働者、環境の変化など環境と景観の変化をもとに検討していく。

(2) 横浜絵（錦絵）を通じて江戸末期から明治初期の横浜の運河がどのように描かれていたのか。そして、戦前期の横浜の運河の写真などとも比較検討する。

(3) 横浜の運河の変化を中国の江南地域（上海）、朝鮮半島（ソウル、釜山）、台湾（台北）などの地域と比較検討する視点についても注目する。近代化の大きな波の中でアジアの大都会として発展する横浜、上海、そしてソウルなどの海辺と運河が人々の生活、産業、環境に与えた影響について図像資料を基に考えたい。

中華街西門と埋め立て前の派大岡川

万国橋からマリンタワーとクイーンの塔の方面を見る